A COMPREHENSIVE SURVEY OF CATHOLIC CHURCHES IN HONG KONG
From the 1840s to the early 1940s

Ayako FUKISHIMA — #1

This study aimed through a comprehensive survey to identify and list all the Catholic churches in Hong Kong, which existed during the period from 1841 to the early 1940s. The criteria to analyze are "use," “existence of space solely reserved for religious activities,” and “building owner,” which signify traits of the churches in Hong Kong rather than architectural style and structure. The study revealed that the majority of churches were "mission stations" whereas proper churches were also built. The chapels of convents, schools, and hospitals were utilized for public worship. Many churches were accompanied by educational and/or welfare facilities.

2. 礼拜施設等諸調査の指標

一般に、教会建築の類型化の指標としては、様式、構造、平面計画用が用いられることが多い。しかし香港カトリック礼拝施設の大半は20世紀後半の機能主義建築であり、様式の類型化は難しい。これらは構造におとんど差がない。香港の礼拝施設を特徴づけるのはむしろ、用途の複合、建築計画における礼拝専用空間の有無、建築物所有者である。これらを指標とするとき、変遷の理由が理解できるのである。すなわち、教会組織は、社会、経済、政治情勢の変動に対応して、礼拝施設に様々な用途を複合させ、時には礼拝空間を他用途に兼用させ、建物の所有者ならず、テナントとなることもあった。こうした教会の選択が、施設の形態、建築計画のバリエーションとなって表れたのである。3つ要素を指標とする理由をさらに説明する。

2.1 用途

香港カトリック礼拝施設は、用途が複合しているものが多い。この背景はいくつかある。香港植民地政府は、特に中国系住民に対する教育福祉政策には極めて消极的であり、教会組織など慈善団体に助成金を与えてこうした事業を担わせた。したがって、礼拝施設は学校や福祉施設に併設されることが多かった。戦後になると、政府による土地供給コントロールが厳しくなり、その結果、慢性的土地不足となり、価格・不動産価格が高騰した。教会のような慈善団体には、高額な土地取得手数料を支払い、礼拝施設を建設する財力がそもそもない。したがって、宗教以外の何らかの公益施設を併設し、政府から土地を無償で借りる、土地取得手数料の減額を得る、建設費の助成を受けるなどの必要があった。また、政府は宗教用途のみの施設を新築することを教会組織に許可しない政策をとった。戦後、大陸からの難民が増加するなか、慈善団体には教育や福祉の機能を備えることを条件に礼拝施設の新設を許可し、土
| 序号/年份 | 教会名 | 併設施設 | 地區 | 地域 | 建築・移転、運用状況 |
|-----------|--------|----------|------|------|---------------------|
| 1 1876    | St. Joseph's Church | 聖若瑟堂 | 花園道 | 香港 | 1868年建替え、現存せず |
| 1 1879    | Sacred Heart Church | 聖心堂 | Orphanage (孤児院) | 西環 | 香港 | 現存せず |
| 16 1880   | Shim Chung Kung Man School | 聖徳中学校 | 深澳 | 新界 | 1956年建替え、現存せず |
| 17 1880   | Sacred Heart Church | 聖心堂 | Primary School, Middle School, Holy Ghost Minor Seminary, 小學、中學、聖心小修院 (小修院学校) | 香港 | 現存せず |
| 18 1880   | Sacred Heart Church | 聖心堂 | Sun Chum Middle School, 禮堂中學 | 西環 | 新界 | 1959年移転建替え、現存せず |
| 19 1880   | Immaculate Heart of Mary Chapel | 聖母無原罪心堂 | White Heart | 新界 | 1916年建替え、現存せず |
| 20 1885   | Our Lady of Lourdes Chapel | 露德聖母堂 | 薫林 | 香港 | 1896年建替え、現存せず |
| 21 1888   | Cathedral of the Immaculate Conception | 无原罪聖堂 | 半山 | 香港 | 現存せず |
| 22 1890   | St. Joseph's Church | 聖若瑟堂 | 壽田仔 | 新界 | 現存せず |
| 23 1892   | St. Anthony's Church | 聖安多尼堂 | 西環 | 香港 | 1922年廃地、閉鎖、Western Reformationへ移転建替え、現存せず |
| 24 1896   | Our Lady of Lourdes Church | 露德聖母堂 | 薫林 | 香港 | 1938年建替え、現存せず |
| 25 1900   | Our Lady of the Seven Sorrows Chapel | 聖母七苦堂 | 北澳 | 新界 | 1940年建替え、現存せず |
| 26 1905   | Rosary Church | 祈祷堂 | 尖沙咀 | 九龍 | 現存せず |
| 27 1907   | Canossian Daughters of Charity | 阿南士女修会 | 半山 | 香港 | チャペル現存、主日英語ミサあり |
| 28 1907   | Canossian Daughters of Charity | 阿南士女修会 | 半山 | 香港 | チャペル現存、主日英語ミサあり |
| 29 1910   | Lung Shun Wan Mission Centre | 霧山天主堂 | 九龍 | 新界 | 廃墟、機能停止、現存せず |
| 30 1914   | Holy Cross Church | 聖十字架堂 | Holy Cross School (1955) | 聖十字架学校 | 葵涌 | 香港 | 1960年解体、建替え、現存せず |
| No | 順位 年 | 教育名 | 併設施 | 地域 | 地域識定、移転、現存状況 |
|---|---|---|---|---|---|
| 31 | 1915 | Chapel of Asile de la Sainte Infance | 神戸 | 香港 | 現存 |
| 32 | 1916 | Immaculate Heart of Mary Chapel | 大崎 | 新宿 | 現存 |
| 33 | 1918 | Nativity of Our Lady Chapel | 滋賀 | 新宿 | 現存 |
| 34 | 1920 | Sacred Heart of Mary Chapel | 大崎 | 新宿 | 1961年建替え現存せず |
| 35 | 1922 | St. Francis Xavier's Chapel | 高知 | 香港 | 現存 |
| 36 | 1923 | St. Margaret Mary's Church | 豊島 | 香港 | 現存 |
| 37 | 1923 | Our Lady of Perpetual Succour Chapel | 池袋 | 大阪 | 1937年建替え現存せず |
| 38 | 1924 | Rosary Chapel | 山手 | 新宿 | 1940年建替え現存せず |
| 39 | 1925 | St. Joseph's College Chapel | 半山 | 香港 | チャペル現存 |
| 40 | 1926 | 聖家聖所 Holy Family Chapel | 階段 | 元朗 | 開館現存 |

| No | 順位 年 | 教育名 | 併設施 | 地域 | 地域識定、移転、現存状況 |
|---|---|---|---|---|---|
| 41 | 1926 | St. Andrew's Church | 新宿 | 戦争中損壊現存せず |
| 42 | 1927 | chapel | 香港 | 現存 |
| 43 | 1927 | St. Joseph's Chapel | 九龍 | 護送 |
| 44 | 1927 | SS. Porter and Paul Church | 元朗 | 新宿 |
| 45 | 1929 | St. John's Chapel | 八幡 | 長崎 |
| 46 | 1929 | Chinese Convent Chapel | 深水埗 | 九龍 |
| 47 | 1929 | St. Peter's Church | 香港 | 1961年建替え現存せず |
| 48 | 1930 | Red Hall Chapel | 深水埗 | 香港 |
| 49 | 1931 | Immaculate Conception Chapel | 高尾 | 新宿 |
| 50 | 1932 | La Salle College Chapel | 九龍 | 現存 |
| 51 | 1933 | Immaculate Conception Chapel | 大浪 | 新宿 |
| 52 | 1934 | St. Teresa's Church | 九龍 | 現存 |
| 53 | 1935 | Sacred Heart of Jesus Chapel | 聖堂 | 新宿 |

1275
| No. | 建設/ 建造年 | 教會名 | 伊勢施設 | 地域 | 地域 | 用途 | 遺体保存状態 |
|-----|-----------|--------|---------|------|------|------|--------------|
| 54  | 1935      | Our Lady of Sorrows Chapel 聖母苦霊堂 | Kam Chuen School 梓全學校（小學校） | 香港 | 村民所有 | 関門 | 遺体保存 |
| 55  | 1937      | St. Anne’s Chapel 聖安德小堂 | Ming Tak School 明德學校 | 香港 | 新界 | 関門 | 遺体保存 |
| 56  | 1937      | Carmelite Monastery Church 聖衣女修院聖堂 | Carmelite Monastery 聖衣女修院 | 香港 | 赤柱 | Ewing Li が改築、現在 | 遺体保存 |
| 57  | 1937      | Church of St. Francis of Assisi 聖方濟亞西西堂 | Da Tung School 大同學校 | 九龍 | 九龍 |
| 58  | 1937      | St. Mary’s Convent School 聖母顯靈小堂 | Maryknoll Convent School 瑪利諾修院學校 | 九龍 | 九龍 |
| 59  | 1938      | Our Lady of Perpetual Succour Church 聖母無原小堂 | Wing Choy Primary School (1921) 永勳小學 | 大澳 | 新界 | 1961年建替え | 遺体保存 |
| 60  | 1938      | Our Lady of Lourdes Chapel 露德聖堂 | Lourdes Hospital (Clinic, Free Schools, Social Centre, Religious goods distribution, emergency cash assistance) 露德病院 (診療所、自由学校、社会センター、礼拝品供給、緊急現金援助) | 香港 | 海扶林 | 1977年移転 | 遺体保存 |
| 61  | 1940      | St. Paul’s Church 聖保羅公所 | 広九 | 九龍 | 現存せずに | 遺体保存 |
| 62  | 1940      | Rosary Chapel 玫瑰小堂 | Rosary Mission Centre (1974) 玫瑰小堂 | 九龍 | 新界 | 1940年建替え | 遺体保存 |

地取得や建物の助成金を与えたのである。このように、礼拝施設がどのような用途を複数しているかは、その時々の社会、経済、政治情勢を反映している。

2.2 礼拝専用空間

香港の礼拝施設には、必ずしも礼拝専用空間があったわけではない。20世紀半ばでは仮設に建設された施設が多数あり、そこではしばしば、ひとつの空間が教廃と教育など、複数の用途に利用された。戦後は、人口急増によって学校礼拝施設の需要が増大するなか、土地が不足し、教会にとっては建設資金も不足する状況となった。このため、建物は仮設であったが、ひとつの空間が礼拝と教育、福祉などの用途に利用され、空間利用の最大効率化がはかられた。礼拝専用空間の有無にも異なる時代背景があるのである。

2.3 所有者

礼拝施設建物所有者については、特に戦後に、差異や明らかの変化が見られる。戦前は、教会組織がほとんどの礼拝施設の所有者であった。しかし戦後は、教区でも、修道会や宣教会でもなく、政府が所有者である学校礼拝施設が多く出現するのである。これも、社会、経済、政治情勢の変化を反映したものであり、指標を示していると考えられる。

3. 調査対象礼拝施設と調査方法

愛知調査の対象するのは、1841年から2018年までに存在し、少なくともある一定期間、ミサが定期的におこなわれ、一般に開放されたことがある全ての礼拝施設である。現在存しない施設も含める。修道院チャペルや学校礼拝施設を含む礼拝施設であるが、一般に開放されたものに限って対象とする。

1841年から2018年までに存在した礼拝施設は確認できる限りで、も200件ほど及び、本稿では1840年代から1940年代前半までを対象とする。この期間の礼拝施設には、後述するように共通する特徴が見られるため、ひとつの時代区分することができると考える。1940年代後半以降は別稿で扱う。

以下の資料と方法によって把握し得る限りの礼拝施設を抽出した：

・香港教育局 Catholic Truth Society of Hong Kong が1953年から発行している“Hong Kong Catholic Church Directory”。発行年に機能していた礼拝施設の開設年、所在地、仮設施設の情報が得ることができる。香港大学図書館、カトリック香港教育アーカイブス (Hong Kong Catholic Diocesan Archives, 以下 HKCDA) で閲覧した。

・HKCDA所蔵の礼拝施設統計原稿及び。香港の教会がパチカに報告するために毎年作成した資料とみなされ、1842年からほぼ毎年存在する。HKCDAで閲覧、収集した。これら統計資料は、アークイブで整理されているものの、個別礼拝施設のデータが研究に活用されたことはこれまでない。本研究が新たに提供するデータである。

・HKCDAウェブサイトに掲載されている礼拝施設。上記ダイレクトリに基づいて整理された二次的情報。

・個別の教会記念誌、公刊出版物ではないので、各教会から個人的に入手するか、香港大学図書館、HKCDAで閲覧した。礼拝施設建設、建造時の理由や時期が記録されていることが多い。記念誌の一部は、教会のウェブサイトに掲載されているもの。

・一部の礼拝施設の仮設施設、現在については、香港教区司祭で前総務会長であったエドワード・コン (Edward Khong) にインタビューをおこない、情報を得た。コンは総務会長として、教区不動産を管理する立場にあり、礼拝施設の状況について最も詳しい人物の一人である。その他、個別の教会の司祭・職員・信徒、教区職員などにもインタビューをおこない、用途や現状を確認した。

・現存している施設については、可能な限り筆者自身で現地調査し、用途や現状を確認した。

以上の条件、資料によって抽出した礼拝施設を、現状（不明な場合は、献堂年、開設年、または記録の初出年）順に列挙した。教区は英語名、中国語名の順で記した。どちらかが不明の場合は記載していない。教区名が変わっている場合は、変更年（判明する場合のみ）とともに順に記載した。

礼拝施設が仮設ではなく恒常的な教会堂として設置された施設である場合、「教会名」列のセリフを薄い線にした（表の下例参照）。恒常的で正式な教会堂では、通常、教会堂（church）としても聖別
あるいは仮別された建物で、恒常的な祭壇があり、聖欄に聖体が常時安置されている。司祭が常駐している。白のセルは、仮設的な礼拝施設である。中濃グレーセルは、修道院専用チャペルであるが、一般にも開放していたものである。最も賑いグレーセルは、カトリック学校もしくは病院、養老院のチャペルである。これら施設は修道会・宣教会が運営するものである。チャペルでの礼拝が一般にも開放されていたものをのみ挙げている。

礼拝以外の用途がある場合には、「併設施設」列に施設名称を英語・中国語で記載した。名称が変わっている場合は新に記載した。併設施設がある場合、「教育」、「宗教教育」、「福祉」の用途によってセルをグレースケールで色分けした。竣工後、用途が変わっている場合があるが、1840-1940年代前半までの期間における用途で分類した。

礼拝専用空間のない施設、すなわち、ひとつの空間を時間帯によって複数の用途に使い分けている施設の「教会会」と「併設施設」のセルを大線で囲った。

HKCDA所有統計ファイルによれば、例えば1922年には267件、1923年に405件、1925年に645件、1926年に675件の仮設的礼拝施設が存在した[26]。しかしながら、これらほとんどについては、個別の所在地、名称が発見されていない。本稿の表に記載したのは、少なくとも具体的の所在地が確認できた施設のみである。1840年代から1940年代前半にかけては62件確認できた。

4. 1840-1940年代前半の香港カトリック礼拝施設の特徴

4.1 ミッション・スティション

表の礼拝施設62件のうち24件（No. 5, 8, 9, 10, 11, 12, 15, 18, 20, 26, 29, 32, 33, 37, 38, 40, 44, 45, 49, 51, 54, 55, 61, 62）は仮設的な礼拝施設「ミッション・スティション」である（「教会会」列別セル）。当時の統計資料はprincipal stations, secondary stations, stations without chapel, mission stations, 公社, temporary premises, Catholic centresという様々な名称で記載されている。一般的に「ミッション・スティション（mission station）」と総称される。これらは多くが非都市域に設置された。宣教師が不定期に週回して行く施設である。宣教師はごく短期間宿泊し、ミサ、洗礼や結婚などの儀式の執行、宣教活動をおこなった。民家など既存の建物を転用したものも多かった。通常、木造かレンガ造。平屋である。

当時の統計資料には、ミッション・スティションの名称が地名で記載されている。一般に教会名称は守護聖人の名を冠するが、そのような記載がない。したがって、ミッション・スティションは、設置当時は聖別・祝別されておらず、守護聖人に奉献されていない施設であったと推察される（一部の教会は戦後に祝別され、正式な教会となったようである）。

ミッション・スティション24件中15件（No. 5, 8, 9, 10, 11, 12, 15, 18, 37, 40, 44, 45, 51, 54, 55）が、学校を併設していたことが確認できた（併設施設）列別グレーセル）。当時の主な宣教活動手段が教育であったことを反映している。政府による教育制度整備は発展途上であったため、カトリック教会がこの時期に提供した学校は小学校相当のもので中学校であった。こうした学校は、village schoolもしくはvernacular schoolと呼ばれ、政府が教員を雇用した。全62件のうち10件が礼拝専用空間を持たない施設（No. 5, 8, 9, 10, 11, 18, 37, 44, 45, 55）であり、これらは全てミッション・スティションである（セル太枠）。同一の空間が時間帯によって、宗教活動と学校に使い分けられた。ミッション・スティションでの同一空間用途分離は一般的であったことがわかる。仮設で、交通の不便な場所にミッション・スティションの全てに礼拝専用空間を確保することは財政的にも困難だったであろう。また、常勤の司祭がおらず、ミサが不定期にしかおこなわれない状態では、仮設空間を確保する必要性も高かったはずである。このような場合には、ひとつの空間を礼拝と教育の用途に兼用していたと考えられる。

4.2 正式な教会堂

62件のうち26件が恒久的で正式な礼拝施設、すなわち教会堂であった（No. 1, 2, 3, 4, 7, 13, 14, 16, 17, 19, 21, 22, 23, 24, 25, 27, 30, 34, 3 6, 41, 47, 52, 53, 57, 59, 60「教会会」列別グレーセル）。同一地域に宗教活動以外の用途併用は原則である。同一地域内に学校を併設している施設が3件（No. 9, 19, 30）、孤児院併設が1件（No. 17）ある。同一地域ではないが、隣接地あるいは近隣で、教会が学校を運営している場合少なくない。正式な教会堂での宣教活動も、教育、福祉と密接に関連しておこなわれていた。

これら正式な礼拝施設は一般的に「教会堂」と呼ばれる建物で、ロマンヌスやゴシック風の様式で建設された[48]。現存しないため、様式が確認できないものもある。西洋風の様式を持つ教会堂が建設されるのはこの時期のみで、戦後には建設されなくなった。現存するものの構造は、石造、レンガ造、コンクリート造がある。

4.3 修道院・学校・病院・養老院チャペル

修道院チャペル3件（No. 31, 46, 56「教会会」列濃グレーが塞尔）、カトリック学校チャペル7件（No. 6, 28, 39, 42, 48, 50, 58濃グレー）、病院チャペルと養老院チャペル各1件（No. 35, 34, 43濃グレー）が礼拝室に開放されていた。No. 31と46の修道院は、学校・福祉施設を併設している。

特に「活動修道会」と呼ばれる修道会と宣教会は、社会のなかで教育、福祉活動をおこないながら宣教活動をおこなうこと、すなわち、学校や孤児院、病院を運営することができたのである。表には、カノッサ修道女会（No. 28, 35）、シャルルモ聖パウロ修道女会（No. 31）、ラ・サール会（No. 39, 50）、サレジ会（No. 42）、安貧小妹会（Little Sisters of the Poor）（No. 43）、宝血女子修道会（No. 46）、イエズス会（No. 48）、メリアノール宣教会（No. 58）の施設がみられる。

カルメル会のような「観想修道会」は、活動修道会とは異なり、修道院内での祈りと労働の中で、修道院外での教育や福祉活動をおこなわない。このため、そうした施設を持たない。しかし、赤柱のカルメル会修道院チャペル（No. 56）は公開礼拝に開放されていた。

修道女のみが入ることのできる禁域と一般会衆がL字の平面で接続されつつも分離し、両者が直接対面、交わることのないプランになっている。

修道院、学校、病院などのチャペルの開放の理由は、当時、香港の教会は草創期にあって、礼拝施設が不足していたためである。こうした特別のチャペルが事業上、小教会堂教会の役割を果していたことを示唆している。また、当時は香港では正式な「カトリック教区」が設立されておらず、したがって教会司祭はいない。このため、
香港での宣教活動主体は、様々な修道院・宣教会から派遣された男子・女子修道士と司祭であった。宣教活動の中心が修道院であったという状況も、修道院運営施設のチャペルが公的礼拝を担っていた理由のひとつであろう。

4. 教会組織による建築物

1840年代から1940年代前半における礼拝施設の建築者は、確認できた限りでは、No. 54 以外は全て教会組織であった。すなわち、カトリック香港特区（1841-1873年）、代理区（1874-1945年）、もしくは修道会、宣教会といったカトリック組織である。この時期、政教関係は密接で、教会は植民地政府の重要なパートナーであった。政府は積極的かつ教会に土地を提供し、教育・福祉・礼拝施設を建設させた。このため、教会は自ら建物の所有者となることができた。戦後になると所有者は多様化する。

5. おわりに

1840年代から1940年代前半の香港カトリック礼拝施設は、個別詳細データが確認できないものも含めると、数には、仮設などの礼拝施設であるミッション・ステーションが大半であった。それを広域に配置し、しばしば学校を併設して教育の場所を提供しながら、宣教活動の拠点としていたことがわかった。他方、正式な教会堂も草創期から平行して建設されていた。修道院・宣教会が所有する修道院、学校、病院、養老院のチャペルも公的礼拝に利用された。礼拝と教育・福祉との用途複合は、草創期から顕著であることが明らかになった。

次項では、戦後、用途複合、礼拝空間、建物所有者の様相が大きく変化してゆくことを明らかにしてゆく。悉皆調査完了後、礼拝施設の類型化をおこす。各類型が生まれた香港社会の経済的・政治的背景を明らかにしてゆく。

本研究に際し多大な御協力を頂いたカトリック香港教区関係各位、エドワード・コン神父、カトリック香港教区アーカイブスに心から謝意を表します。本研究の一部は、科学研究費若手研究（B）（課題 № 26820272）の助成を受けて実施したものです。

参考文献
1) Catholic Truth Society: *Hong Kong Catholic Church Directory*, Catholic Truth Society. 2018
2) 高永順: 神的聖域 教堂建築、空間之恋 香港建築百年、陳翠兒ら編、pp.113-121、三聯書店（香港）、2005
3) 横田泰: 香港聖堂建築概要、香港聖堂建築概要、香港教区禮儀委員會編、pp.1-6, 1991
4) 林政森: 教堂建築本地化型修道院建築與風格、監督 33 号、pp.167-183、http://www.theology.org.hk/psa/articles/papers/2010_booklet.htm 2010
5) Xue, Charlie Qiu Li: *Hong Kong architecture, 1945-2015 From colonial to global*, Springer. 2016
6) Fukushima, Ayako: Catholic Laity Involvement in Church Building Project: Management of church building projects in the Hong Kong catholic diocese from the 1960s to present, 日本建築学会計画系論文集第 76 巻 第 667 号、1711-1719, 2013.9
7) Fukushima, Ayako and Yoshitake Doi: The Building Process and the Laity Involvement of Our Lady of Mount Carmel Church in Wanchai, Hong Kong: Church building system of the Catholic Diocese of Hong Kong, 日本建築学会計画系論文集第 78 巻 第 688 号、pp.1431-1440, 2013.6
8) Fukushima, Ayako and Yoshitake Doi: The Catholic Building Professional Advisory Group and Its Spirituality: Laity Involvement in Church Building System of the Catholic Diocese of Hong Kong, 日本建築学会計画系論文集第 80 巻 第 708 号、pp.429-439, 2015.2
9) Fukushima, Ayako: Laity Involvement in Catholic Church Buildings of Hong Kong: Interpretation within Religious, Social and Political Contexts from the 1960s to 2015, 學術論文論文（九州大学），http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/en/recordID/1654500, 2016
10) Leung, Beatrice and Shun-hing Chan: *Changing Church and State Relations in Hong Kong*, 1950-2000, Hong Kong University Press. 2003
11) Ha, Louis Kelon: The foundation of the Catholic mission in Hong Kong 1841-1894, Ph. D dissertation (University of Hong Kong), 1998
12) HKCDA: Church Buildings, http://archives.catholic.org.hk/Church%20Building/CB-Index/Chi.htm, 2018年1月31日閲覧

注
注1) 本稿では「礼拝施設」という用語を用いる。教会堂という言葉は低層で独立した建物としての礼拝施設を想定させる。しかし香港の教会堂の多くは用途複合であり、必ずしも独立した建物ではなく、宗教活動専用の空間を持たないため、礼拝施設という呼称が適当である。
注2) 香港の土地所有システムは、政府が土地を所有し、法人や個人に賃貸するリースホールド・システムである。したがって教会組織は、土地を賃借しているのであり、所有はしていない。
注3) HKCDA Section 1 Box5, 6, 7に統計資料を収蔵。うち、個別礼拝施設名称の記載がある以下の資料を主に参照した：*Vicariatus Apostolicus Hong Kong/China* 1926-1932, 1934-1940, 1945: カトリック・ミッションからThe Colonial Secretaryへの書簡, 1928年2月6日: *Sacri Ministerii Annuario Catalogus* 1932-1933, 1936-1937. The Documents reproduced with permission of the Hong Kong Catholic Diocesan Archives. ©The Roman Catholic Church in Hong Kong, License No. HKCDA-DOC001/2018.
注4) 以下のウェブサイトを起点に各教会のウェブサイトを参照した：Catholic Diocese of Hong Kong, "Catholic Heritage" http://www.catholic-heritage.org.hk/en/home/index.html, 2018年1月31日閲覧
注5) "Prospectus Status Missions" HKCDA Section 1 Box 3, 6, 当時の香港カトリック教会の管轄地域は、現在の中国広東省の一部を含んでいた。ミッション・ステーションはこの本土部分にも多数存在した（The Document reproduces with permission of the Hong Kong Catholic Diocesan Archives. ©The Roman Catholic Church in Hong Kong, License No. HKCDA-DOC001/2018).
注6) 現存する cathedral（1888年竣工，表の No.22）と Rosary Church(1905, No.27) はゴシック、St. Margaret Mary’s Church(1923, No.36)のファサードは新古典様式、St. Teresa’s Church(1932, No.52)はロマネスク風の様式を持つ。
注7) 聖母七苦小堂（表の No.54）は、落語家が共同持分を所有し、教会が1966年まで借用し礼拝施設としていた。ミッション・ステーションの中には、他にも同様の事例があったが、記録が残っていないものが多いほどで、確認できていない教区もある。
注8) 宣教地とは、住民区教義が設置されていない宣教地において設置される教会行政区の区域である。バチカンに所属する。一般に、宣教地はまず教区となる。その次に代理区となる。最終的に司教区となる（上智学院新カトリック大学編集委員会：新カトリック大事典、研究社, 1996）。香港カトリック教会は1936年に教区となった。

[2018年2月6日原稿受理 2018年4月20日採用決定]